

## ISO/TC 8/SC 2(海洋環境保護分科委員会)担当分

議長:千田哲也氏((一財)日本船舶技術研究協会)、幹事国:米国(ANSI)

担当	規格番号	標題	標題(邦訳)	概要	制定等年月日	JIS化の状況
SC2	ISO 13073-1:2012	Ships and marine technology - Risk assessment on anti-fouling systems on ships -- Part 1: Marine environmental risk assessment method of biocidally active substances used for anti-fouling systems on ships	船舶及び海洋技術－船舶の防汚方法に関するリスク評価－第1部:船舶の防汚方法に用いる殺生物性活性物質の海洋環境リスク評価法	船舶に使用される防汚システムで意図的に使われている殺生物性活性物質による潜在的悪影響から海洋環境を保護するためのリスク評価法について取り纏めたもの。 【日本主導】	2012.08.01.  定期見直し投票終了 2017.12.04  確認(現状維持)	JIS F 0600-1 (IDT)
SC2	ISO 13073-2:2013	Ships and marine technology -- Risk assessment on anti-fouling systems on ships -- Part 2: Marine environmental risk assessment method for anti-fouling systems on ships using biocidally active substances	船舶及び海洋技術－船舶の防汚方法に関するリスク評価－第2部:殺生物性活性物質を用いた船舶の防汚方法の海洋環境リスク評価法	船舶に使用される殺生物性活性物質を含む防汚システム(防汚塗料等)による潜在的悪影響から海洋環境を保護するためのリスク評価法について取り纏めたもの。【日本主導】	2013.06.01.  定期見直し投票終了 2018.09.03 確認(現状維持)	JIS F 0600-2 (IDT)
SC2	ISO 13073-3:2016	Ships and marine technology -- Risk assessment on anti-fouling systems on ships -- Part 3: Human Health risk assessment for the application and removal of anti-fouling systems	船舶及び海洋技術－船舶の防汚方法に関するリスク評価－第3部:殺生物性活性物質が用いられた船舶の防汚方法の塗装及び除去作業における人健康リスク評価法	船舶の防汚塗料に用いられる殺生物性活性物質によって、塗装作業者が被ばくするリスクがある場合で、同物質を含む塗料製品を用いることができると判断するためのリスク評価法について取り纏めたもの。専門家あるいはアマチュアの労働者へ与える影響の測定にこのリスク評価を用いることができる。ただし、危険及び毒性の評価のための特定の試験方法はこの規格では定めておらず、物質の使用制限等の推奨もしてはいない。【日本主導】	2016.06.01	—
SC2	ISO 13617:2001	Ships and marine technology - Shipboard incinerators -Requirements	船舶及び海洋構造物－船上焼却炉の要件	船舶の通常業務に伴って発生するガベージやその他の船内廃物(MARPOL条約附属書Ⅱ又はⅢにより定義された物質で汚れた貨物関連廃物を除く。)を焼却する焼却装置の設計、製造、性能、運転、機能及び試験について取り纏めたもの。	2001.11	JIS F 7011:1998 (NEQ)
SC2 (SC3から移管)	ISO/DIS 13617	Ships and marine technology - Shipboard incinerators -Requirements	船舶及び海洋構造物－船上焼却炉の要件	船舶の通常業務に伴って発生するガベージやその他の船内廃物(MARPOL条約附属書Ⅱ又はⅢにより定義された物質で汚れた貨物関連廃物を除く。)を焼却する焼却装置の設計、製造、性能、運転、機能及び試験について取りまとめたもの。  改正作業に着手。SC3(配管及び機械分科委員会)から移管。6月のISO/TC 8/SC 2マールメ会議で、FDIS投票を7月31日までに実施することに合意した(決議263)。	DIS投票承認 2018.05.31	—

担当	規格番号	標題	標題(邦訳)	概要	制定等年月日	JIS化の状況
SC2	ISO 16165:2013	Ships and marine technology -- Marine environment protection -- Terminology relating to oil spill response	船舶及び海洋技術－海洋環境保護 －油流出への対応に関する用語	油流出とその管理に関する用語および定義を取りまとめたもの。  2019年5月に開催されたISO/TC 8/SC 2京都総会において、小改訂のためのFDIS投票を実施することが承認された。	2013.05.15.	—
SC2	ISO 16304:2013	Ships and marine technology -- Marine environment protection -- Arrangement and management of port waste reception facilities	船舶及び海洋技術－海洋環境保護 －港湾廃棄物受入施設の配置及び 管理	MARPOL条約により規制を受ける船内発生廃棄物であって港湾・ターミナルに陸揚げされるものの管理について取り纏めたもので、港湾廃棄物管理計画(PWMP)作成、同計画の実施及び港湾受入施設の運用においての際に考慮すべき原則や問題についても記述している。	2013.03.15.	—
SC2	ISO 16304:2018	Ships and marine technology -- Marine environment protection -- Arrangement and management of port waste reception facilities	船舶及び海洋技術－海洋環境保護 －港湾廃棄物受入施設の配置及び 管理	船上の廃棄物の、港湾における受入施設の配置と管理を取りまとめたもの。 2013年1月1日に発効したMARPOL条約改正附属書VIに準拠した形で改正を行った。	2018.08.29.	—
SC2	ISO 16446:2013	Ships and marine technology -- Marine environmental protection -- Adaptor for joining dissimilar boom connectors	船舶及び海洋技術－海洋環境保護 －異種のコネクターを備え付けた ブームを連結するためのアダプター	標準的アダプターを介して種類の異なるコネクターを備えた流出油封じ込め用ブームの統一的な結合方法について取り纏めたもの。	2013.04.01.	—
SC2	ISO 17325-1:2014	Ships and marine technology -- Marine environment protection -- Oil booms -- Part 1: Design requirements	船舶及び海洋技術－海洋環境保護 －オイルブーム－第1部:設計要件	オイルフェンスの基本設計、一般的な機能、表示方法を取りまとめたもの。この規格はユーザーによる製造業者選択に役立つことを目的としており、製造業者が提供すべきオイルフェンスの材料、設計及び性能の最小限の要件を記載している。ただし、安全関係への取り組み及びオイルフェンスの操作手順は定めていない。  現在、2019年9月2日×切の定期見直し投票を実施中。日本は「確認(現状維持)」の回答。	2014.04.18	—
SC2	ISO 17325-2:2014	Ships and marine technology -- marine environment protection - Oil booms -- Part 2: Strength and performance requirements	船舶及び海洋技術－海洋環境保護 －オイルブーム－第2部:強度及び 性能に関する要求事項	ISO/DIS 17325-1に加え、オイルブームの強度及び性能要件並びに関連する試験方法を取り纏めたもの。オイルブームの使用における安全要件については記載されていない。	2014.10.15	—
SC2	ISO 17325-3:2018	Ships and marine technology -- marine environment protection - Oil booms -- Part 3: End connectors	船舶及び海洋技術－海洋環境保護 －オイルブーム－第3部:エンドコネ クタ	水上における油の流出を防止するためのオイルブームの連結に関する最低限の基準を取り纏めたもの。なお、配置に関する制限は設けない。	2018.09.25	—

担当	規格番号	標題	標題(邦訳)	概要	制定等年月日	JIS化の状況
SC2	ISO 17325-4:2018	Ships and marine technology -- marine environment protection - Oil booms -- Part 4: Auxiliary Equipments	船舶及び海洋技術－海洋環境保護－オイルブーム－第4部:周辺器具	オイルブームの設置に必要な周辺機器の設計、配置及び適用について取り纏めたもの。	2018.09.18	—
SC2	ISO 18309:2014	Ships and marine technology -- Incinerator sizing and selection -- Guidelines	船舶及び海洋技術－船内焼却炉の寸法及び選定－指針	ISO 13617の関連文書として、船内焼却炉購入の選定を助ける選定基準を取り纏めたもの。化学物質、産業廃棄物などを焼却する特別焼却船における焼却システムには適用されない。	2014.10.15	—
SC2	ISO 18611-1:2014	Ships and marine technology -- Marine SCR applications -- NOx reduction agent AUS 40: - Part 1: Quality requirements	船舶及び海洋技術－海洋環境保護－SCR用NOx還元剤AUS40－第1部:品質に関する要求事項	エンジン排ガス処理のためのSCRに使用するNOx還元剤AUS40(尿素溶液)の品質特性について取り纏めるもの。  * 国内エンジンメーカーから、定期見直しの際に改訂提案したいとの要望があることに留意。	2014.10.03	—
SC2	ISO 18611-2:2014	Ships and marine technology -- Marine SCR applications -- NOx reduction agent AUS 40: - Part 2: Test methods	船舶及び海洋技術－海洋環境保護－SCR用NOx還元剤AUS40－第2部:試験方法	NOx還元剤AUS40(尿素溶液)の品質特性の決定に必要な試験方法について取り纏めるもの。	2014.10.03	—
SC2	ISO 18611-3:2014	Ships and marine technology -- Marine SCR applications -- NOx reduction agent AUS 40: - Part 3: Handling, transportation and storage	船舶及び海洋技術－海洋環境保護－SCR用NOx還元剤AUS40－第3部:取扱い、輸送及び保管	NOx還元剤AUS40(尿素溶液)の取扱い、輸送及び貯蔵を最適に実施するための要求事項及び推奨事項を取り纏めるもの。	2014.10.03	—
SC2	ISO 19030-1:2016	Ships and marine technology -- Measurement of changes in hull and propeller performance -- Part 1: General principles	船舶及び海洋技術－船体及びプロペラ性能変化の測定－第1部:一般要件	船体及びプロペラ性能の変化の測定に関する一般事項を取り纏めるもの。 本規格の目的を達成するに当たり、次の事項を規定する。 －船体及びプロペラ(水中における)性能の定義 －船体推進効率と船体への総抵抗の関連性 －船体及びプロペラ性能の変化測定時における適切な測定パラメータ －データ取得手順 －測定の不確かさの主な要因	2016.11.15	—
SC2	ISO 19030-2:2016	Ships and marine technology -- Measurement of changes in hull and propeller performance -- Part 2: Default method	船舶及び海洋技術－船体及びプロペラ性能変化の測定－第2部:標準手法	船体及びプロペラ効率の経時変化測定並びに基本性能指標を用いた計算の標準手法について取りまとめたもの。	2016.11.15	—
SC2	ISO 19030-3:2016	Ships and marine technology -- Measurement of changes in hull and propeller performance -- Part 3: Alternative method	船舶及び海洋技術－船体及びプロペラ性能変化の測定－第3部:代替手法	ISO 19030-2で取りまとめた手法を実践できない場合の代替手法について取り纏めたもの。	2016.11.15	—

担当	規格番号	標題	標題(邦訳)	概要	制定等年月日	JIS化の状況
SC2	ISO 20053:2017	Ships and marine technology - Marine environment protection - Guidance on design and selection of sorbents	船舶及び海洋技術－海洋環境保護－油吸着材の設計及び選定指針	水上で用いられる油吸着材の基本設計、一般的な機能等について取り纏めたもの。また、製造者から供給される油吸着材の選定基準、材料、設計及び性能についての最低要件を取り纏めている。	2017.07	—
SC2	ISO 20083-2:2019	Ships and marine technology -Shaft power measurement for ship propulsion system -- Part 2: Optical reflection method	船舶及び海洋技術－船舶推進システムの軸出力計測－第2部:光反射式軸馬力計	光源、反射版及びフォトセンサー等で構成される光学式軸馬力計の技術要件及び校正手順を取り纏めたもの。【日本主導】 2019年6月に正式なISO規格として制定された。また、規格制定に伴い、本件の規格開発を行ったISO/TC 8/SC 2/WG 8を休眠状態とすることが、2019年5月開催のISO/TC 8/SC 2京都総会で承認された。	2019.06 (制定)	—
SC2	ISO 20083-3:2019	Ships and marine technology -- Marine environment protection -- Part 3: Shaft power measurement for ship propulsion system -- Part 3: Elastic strip vibration method	船舶及び海洋技術－船舶推進システムの軸出力計測－第3部:振動膜式軸馬力計	振動膜式軸馬力計の一般要件及び機器の構成並びに計測精度を決定する要素について取り纏めたもの。【日本主導】 2019年6月に正式なISO規格として制定された。また、規格制定に伴い、本件の規格開発を行ったISO/TC 8/SC 2/WG 8を休眠状態とすることが、2019年5月開催のISO/TC 8/SC 2京都総会で承認された。	2019.06 (制定)	—
SC2	ISO 21070:2017	Ships and marine technology -- Marine environment protection -- Management and handling of shipboard garbage	船舶及び海洋技術--海洋環境保護--船上ごみの管理および取り扱い	船上ごみの取り扱い、収集、分別、表示、処理および貯蔵などに関する手順をとりまとめたもの。船陸間のインターフェースおよび船から陸側の受け取り施設への運搬についても記載されている。本規格案のごみの定義はMARPOL Annex Vと同様である。 図記号についてMARPOLとの齟齬があるとの指摘を受けて、1ページの正誤表を作成した。7月31日までに発行することを6月のISO/TC 8/SC 2マルメ会議で合意した(決議262)。	2017.1	—
SC2	ISO 21072-1:2009	Ships and marine technology -- Marine environment protection: performance testing of oil skimmers -- Part 1: Moving water conditions	船舶及び海洋技術--海洋環境保護--油回収装置(オイルスキマー)の性能試験--第1部:流水条件	オイルスキマーの性能をエンドユーザーが客観的に判断・比較・評価するのに資するため、オイルスキマーの流水条件下での性能に関する定量的性能データを取得するための方法について取り纏めたもの。 【補足】ISO/TC 8/SC 2にて、ドイツより、本ISO規格が規定する試験方法を一部の国だけが実施可能であるため、規格廃止の提案があった。SC2メンバー間で実施されたCIB投票では、メンバーの多くが「廃止して差し支えない」と回答したが、中国のみ、国家規格に採用しているとの回答があったため、中国の意見を再確認することになった。その結果、2019年5月に開催されたISO/TC 8/SC 2京都総会において、本規格の廃止が決定した。	2009.02.15  (廃止予定)	—
SC2	ISO 21072-2:2009	Ships and marine technology -- Marine environment protection: performance testing of oil skimmers -- Part 2: Static water conditions	船舶及び海洋技術--海洋環境保護--油回収装置(オイルスキマー)の性能試験--第2部:静水条件	オイルスキマーの性能をエンドユーザーが客観的に判断・比較・評価するのに資するため、オイルスキマーの静水条件下での性能に関する定量的性能データを取得するための方法について取り纏めたもの。 2019年5月に開催されたISO/TC 8/SC 2京都総会において、小改訂のためのFDIS投票を実施することが承認された。	2009.08.15.  (小規模改訂の予定)	—

担当	規格番号	標題	標題(邦訳)	概要	制定等年月日	JIS化の状況
SC2	ISO 21072-3:2010	Ships and marine technology -- Marine environment protection: performance testing of oil skimmers -- Part 3: High Velocity Oil	船舶及び海洋技術－海洋環境保護 －油回収装置(オイルスキマー)の性能試験－第3部:高粘度の油	オイルスキマーの性能をエンドユーザーが客観的に判断・比較・評価するのに資するため、高粘度の油の回収性能に関する定量的性能データを取得するための方法について取り纏めたもの。	2010.03.01  定期見直し投票 終了 2017.08.04	—
SC2	ISO/NP 21716-1	Ships and marine technology – Bioassay methods for screening anti- fouling paints -Part 1: General requirements	船舶及び海洋技術－防汚塗料の生物 検定スクリーニング手法－第1部: 一般要件	船体付着生物の越境を防ぐために船舶に使用される防汚塗料の性能評価試験の共通的な要求事項を取り纏めたもの。【日本主導】  2019年5月に開催されたISO/TC 8/SC 2京都総会において、タイトル及び適用範囲の変更が承認された。また、WDの修正後、8週間のCD投票を実施することが承認された。  新タイトル: Ships and marine technology – Bioassay methods for screening anti-fouling paints -Part 1: General requirements	NP投票承認 2019.01.03  WD作成中	—
SC2	ISO/NP 21716-2	Ships and marine technology – Bioassay methods for screening anti- fouling paints -Part 2: Barnacles	船舶及び海洋技術－防汚塗料の生物 検定スクリーニング手法－第2部: フジツボ	フロールーシステムを適用して、フジツボを用いた防汚塗料の性能を評価する方法を取り纏めたもの。【日本主導】  2019年5月に開催されたISO/TC 8/SC 2京都総会において、タイトル及び適用範囲の変更が承認された。また、WDの修正後、8週間のCD投票を実施することが承認された。  新タイトル: Ships and marine technology – Bioassay methods for screening anti-fouling paints -Part 2: Barnacles	NP投票承認 2019.01.03  WD作成中	—
SC2	ISO/NP 21716-3	Ships and marine technology – Bioassay methods for screening anti- fouling paints -Part 3: Mussels	船舶及び海洋技術－防汚塗料の生物 検定スクリーニング手法－第3部: ムラサキガイ	フロールーシステムを適用して、ムラサキガイを用いた防汚塗料の性能を評価する方法を取り纏めたもの。【日本主導】  2019年5月に開催されたISO/TC 8/SC 2京都総会において、タイトル及び適用範囲の変更が承認された。また、WDの修正後、8週間のCD投票を実施することが承認された。  新タイトル: Ships and marine technology – Bioassay methods for screening anti-fouling paints -Part 3: Mussels	NP投票承認 2019.01.03  WD作成中	—
SC2	ISO/DIS 21963	Ships and marine technology -- Marine environment protection -- Tank and piping system for facilitating oily water separation on fixed offshore marine structures	海洋環境に資する油水分離器を最適 化するためのタンク及び配管の設計	船舶、海洋プラットフォーム及び海洋構造物の運用時に発生する汚水の油水分離を最適化するためのタンク、配管及び分離システムの設計について取り纏めたもの。  2019年3月に開催されたISO/TC 8/SC 2/WG 3ハンブルク会議の決定に基づき、CD投票を省略するための投票が実施され、特段の反対なく承認された。現在、DIS投票を実施するための準備中。	CD投票の省略 を承認 2019.05.01	—



担当	規格番号	標題	標題(邦訳)	概要	制定等年月日	JIS化の状況
SC2	ISO 23048:2018	Ships and marine technology -- Verification method for portable power measurement using strain gauge	船舶及び海洋技術－ひずみゲージ 式軸馬力計の校正手法	燃料消費等を計測する、ひずみゲージ式軸馬力計の校正手法について規定したもの。  【補足】TC 8/SC 2ペイントン総会(2017年6月)において、本ISO規格はISO 20083-2及び-3と主旨が異なるため(※1)、シリーズではなく単独規格とするための提案があった。この提案に伴い、本規格を単独規格とするため、番号及び名称を変更する手続きが取られることとなった。  ISO 20083-1(現ISO 23048)は、校正手法を主眼としている一方、ISO 20083-2及び-3は、機器そのものについて規定している。	2018.07.04制定	—
SC2	ISO/AWI 23668	Ships and marine technology – Marine environment protection– Continuous on-board pH monitoring method (旧題:Ships and marine technology -- Marine environment protection -- Onboard monitoring method of pH for exhaust gas cleaning systems)	船舶及び海洋技術－海洋環境保護 －排ガス洗浄システムのpHの船上 での監視手法	エンジン排ガス中の硫黄酸化物(SO <sub>x</sub> )を低減するための船上の排ガス洗浄システム(EGCS)に使われる複合電極を用いた水素イオン濃度(pH)の連続監視装置の性能要件及び試験方法をとりまとめたもの【日本主導】。  2019年5月に開催されたISO/TC 8/SC 2総会において、タイトル(※1)及び適用範囲の変更が承認された。また、WDの完成後、4週間のCD投票を実施することが承認された。  ※1=Ships and marine technology – Marine environment protection– Continuous on-board pH monitoring method	2018.11.20 NP投票で承認  WD作成中	—
SC2	ISO/AWI 23765	Ships and marine technology -- Marine environment protection -- Guidelines for a method of collecting ship's fuel oil consumption data	船舶及び海洋技術－船舶の燃料油 消費量データの収集方法のためのガ イドライン	MARPOL条約附属書 VIの22A規則の要件に従って、総トン数5,000トン以上の船舶のデータを収集するためのガイドラインを規定する。航行距離、停泊していない時間、燃料油消費量の計測といったデータの収集のための実用的な手法がこの規格において明記される。  2019年5月に開催されたISO/TC 8/SC 2/WG 11京都会議では、8月末までにプロジェクト・リーダーがWG 11メンバー宛てに意見照会を実施し、10月8日のWG 11会議(於:釜山)にて審議を行うことを決定した。  TC 8/SC 2にWG11 (Ships' energy efficiency data collection)を設置。	2018.12.28 NP投票で承認  WD作成中	—
SC2	ISO/AWI 24132	Ships and marine technology — Design and testing of marine transfer arms for liquefied hydrogen	船舶及び海洋技術－液化水素用海 洋トランスファーアームの設計と試験	液化水素運搬船を扱う沿岸液化水素ターミナルで使用される液化水素用海洋トランスファーアーム(ローディングアーム)に関する設計、安全のための最小限の要件、検査及び試験方法について取り纏めたもの。  TC 8/SC 2にWG 12 (Marine liquefied hydrogen transfer arms)を設置。	2019.05.01 NP投票で承認	—

担当	規格番号	標題	標題(邦訳)	概要	制定等年月日	JIS化の状況
SC2	ISO/AWI 24146-1	Ships and marine technology -- Marine environment protection -- Part 1: Management and handling of shipboard waste on inland vessels	船舶及び海洋技術－海洋環境保護 －第1部:内陸航行船の船上で発生 する廃棄物の管理と取り扱い	内陸航行船の船上で発生するゴミの管理の手順について取り纏めている(取り扱い、収集、分別、マーキング、処置及び貯蔵)。	2019.05.09 NP投票で承認  WD作成中	—
SC2	ISO/AWI 24146-2	Ships and marine technology -- Marine environment protection -- Part 2: Specifications of port reception facilities of shipboard waste from inland navigation vessels	船舶及び海洋技術－海洋環境保護 －第2部:内陸航行船の船上で発生 する廃棄物のための、港湾受入施設 の仕様	内陸航行船の船から陸へのインターフェイス、及び船から港湾受入施設へのゴミの引き渡しについて取り纏めている。	2019.05.09 NP投票で承認  WD作成中	—
SC2	ISO/NP 24247	Ships and marine technology--Marine environment protection--Arrangement and management of port reception facilities in the arctic	船舶及び海洋技術－海洋環境保護- 極海域における港湾受入施設の配 置及び管理	極海域の航行船において発生したゴミを港湾施設が適切に取り扱うための準拠すべき要件を取り纏めている。2019年6月24日×切のNP投票が終了したが、新規作業項目の承認に必要な専門家登録が不足している。	2019.06.24 NP投票終了	—
SC2	ISO/NP 24248	Ships and marine technology--Marine environment protection--Manaement and handling of waste generated on board arctic ships	船舶及び海洋技術－海洋環境保護- 極海域航行船において出されたゴ ミの管理及び取り扱い	極海域の航行船が、船上で発生したゴミを港湾施設に引き渡すまでの管理要件を取り纏めている。2019年6月24日×切のNP投票が終了したが、新規作業項目の承認に必要な専門家登録が不足している。	2019.06.24 NP投票終了  WD作成中	—